Catch the WAVES！

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和4年度3月号①
HP:http//www.sado-ss.nein.ed.jp

第 10 回　卒業証書授与式

令和５年３月 15 日（水）、第 10 回卒業証書授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、体育館は卒業生と保護者のみ、在校生は電子黒板を用いて自教室からオンラインによる遠隔での参加となりました。卒業生は６年間過ごした友人や校舎に別れを告げることとなりました。

学校長式辞　白藤　恵一　校長

柔らかな陽ざしに両津湾は輝き、金北山、ドンデン山の残雪も溶け始め、命あるものが躍動して春の息吹を感じる、今日の佳き日に、御来賓のＰＴＡ会長　祝　太郎（ほうり　たろう）様、石楠花会会長　野口　忍（のぐち　しのぶ）様、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和四年度新潟県立佐渡中等教育学校第 10 回卒業証書授与式を挙行できますことに、心から感謝申し上げます。

本校６か年の教育課程を修了し卒業証書を授与された 10 期生 30 名の皆さん、御卒業おめでとうございます。将来を見据え親子で話し合い、「佐渡中等で頑張ってみよう」と、僅か 12 歳で受検を決意し、選抜され入学して６年間学び続けたことに敬意を表します。本当によく頑張りました。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。誕生から 18 年、我が子の成長した姿を御覧になり幼かった頃の想い出も伴い、感慨もひとしおのことと存じます。６年間、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さんは、「佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな知性と人間性を身に付け、世界的な視野で活躍する人材育成」という教育目標のもと、６年間、日々学び考え、活動に取り組んできました。本校の強みである幅広い異年齢集団での多岐にわたる学校行事、「佐渡未来学」による地域探究学習、「能楽」等の地域文化の継承、他者との共存、異文化理解等を学び、多様な価値観、人間性を磨きました。皆さんには、知性、人間性、郷土愛の３本の柱が、大きく立派に育ちました。

しかしこの３年間は新型コロナウイルス感染拡大により世界中が翻弄され、ワクチン接種が進んだものの第８波の波が立ち、マスク越しでお互いの表情が見えない中、不自由な生活が続きました。

後期課程開始直後の臨時休業、分散登校、６月から学校再開。昨年度コロナ禍２巡目は学びを止めてはならないと、ＩＣＴ活用元年として電子黒板、タブレットでの授業推進、制限、制約の中、生徒会役員の創意工夫を凝らした各種学校行事で学校生活が前進しました。楽しみにしていた海外研修旅行は延期したものの行くことができず県内代替旅行で辛い思いをさせましたが、ふるさと新潟の未知の魅力を知ることができたと、学年の輪を深め戻ってきた姿を頼もしく感じました。

行事だけではなく、仲間との触れ合いや他愛ない会話等、生活の様々な場面で我慢を強いられ、互いを理解し思いやり寄り添うように努めたことと思います。学級や異年齢集団での学びや関わりを通した成長は、御家庭での保護者の皆様による温かい見守りの賜物であり、（３年ぶりにマスクなしの）凜とした卒業生の皆さんの表情も見え、誇らしく感じます。

さて、旅立つ 10 期生の皆さんに、私から餞（はなむけ）の言葉を２つ贈りたいと思います。

１つ目は、『人との出逢いは必然の奇跡』です。

シンガーソングライターの中島みゆきさんは、『糸』という歌の中でこう呼びかけます。

「なぜめぐり逢うのかを私たちはなにも知らない　いつめぐり逢うのかを私たちはいつも知らない」

親と子の出逢いは幾多の奇跡を経て家族となり、佐渡中等卒業を、この日この場所でともに迎えることになった皆さんの出逢いもまた、まさに必然の奇跡であると、言えるのではないでしょうか。振り返れば入学までにも一本の「糸」のようなそれぞれの「物語」（ストーリー）があり、入学してからも、その「糸」を更に紡ぎながら今日を迎えました。

「縦の糸はあなた　横の糸はわたし　織りなす布はいつか誰かを暖めうるかもしれない」

本校でめぐり逢った糸は、縦横に整然と織りなされる、というよりは、むしろ絡み合い、縺れ合い、重なり合って、しかし、そうありながら、ついには唯一無二の美しい彩りを、今日ここに織り上げられました。糸同士が縦横に結び合えば一枚の布となり、何者かを覆い、かばい、暖め、時には傷をも癒やす大切な力になる。一本の糸だけでは生み出せない力が縦横に絡み合うことで大きな力を生むのです。何が縦になり、横になるか、斜めに絡むか、全ては出逢いが決めるのでしょう。

今後、皆さんが逢うべき糸に出逢えること、仕合わせを祈っています。

２つ目は、『置かれた場所で咲きなさい』です。かつて、マザー・テレサが来日した際に、通訳を務める等、多方面で活躍されたノートルダム清心女子大学の名誉学長 渡辺和子さんのベストセラーにもなった言葉です。

「置かれた場所で咲くということは、仕方ないと諦めることではありません。それは自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすることによってここで生きることとなったのは間違いでなかったと、証明することなのです」と述べています。

進路先が第一志望でなかったり、仕事の配属先が意に沿わなかったりすることもあるでしょう。または、広い世間、長い人生においては、自分の力ではどうにもならない、不条理なこと、困難なこと、苦しいこと、辛いことに、たくさん対峙します。「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次へと出てきます。そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い日、日照り続きの日、そんな時には無理に咲かなくてもいいのです。じっと堪え、待ちましょう。根を下へ下へと降ろして根を張り、次に咲く花がより大きく、美しいものとなるために・・・。

大切なことは、道理に合わない時、どうにもならないと思う時、うまくいかない逆境の時、どう向き合いどう考え、最適解を見つけ出すかということです。不平不満や文句ばかりを言っても、事態はなんら変わりません。自分の力ではどうにもならないと思うような時でも、そこに一筋の光を見出すことができる人は、いつか人生の花も咲かせることができるのです。人生は捉え方一つ、考え方一つで、幸せにも不幸せにもなると思います。

蒔(ま)かれた種はその場でただひたすら咲くしかありませんが、置かれた場所で咲く花はとても強く美しいものです。コロナ禍を乗り越えてきた皆さんなら大丈夫、自分を信じて咲き誇ってください。

それでも、行き詰まる時、戸惑う時、もうこれ以上先へは進めない時、どうか母なる大地、ふるさと佐渡を思い出してほしい。ふるさと佐渡、母校佐渡中等は、まさに「港」のような存在でありたい。人生という大海原、荒海に漕ぎ出した皆さんが航路に迷った時、いつでも待っています。

お母さん、お父さん、家族が厳しく、優しく寄り添い教えてくれたこと、母校佐渡中等でのかけがえのない６年間の学びから得たことを想い出し、順風満帆な時も嵐の時も磨かれた知性と感性を駆使し、恐れることなく生きていってほしい。校是 Catch the WAVES！夢を叶える波をつかめ！風を見極め、道を切り開いていってください。

そして心の片隅に、深刻な少子高齢化が進むふるさと佐渡にいつの日か何らかの貢献をしようという志を持ち続けてほしいと切に願っています。　卒業生の皆さんには新時代、激変の社会にも柔軟に適応し、そして親から授かった命を大切にし命のバトンを繋げ、世のため人のためにたくましくしなやかに生き抜いてほしいと願っています。

希望に満ちた船出の日に当たり、この学舎(まなびや)を巣立ちゆく皆さんの前途洋々たる未来を祈るとともに、御臨席賜りました御来賓の皆様、保護者の皆様のますますの御健勝を祈念して『式辞』といたします。

卒業生代表答辞

寒さも和らぎ、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。本日、私たち10期生は、６年間の思いが詰まったこの校舎から旅立つ日を迎えました。

本日はお忙しい中、私たち卒業生のためにご臨席くださった皆様、誠にありがとうございます。また、校長先生始め、ご来賓の方々、在校生の皆様からの温かいお言葉をいただき、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

６年前、私たちは新しい生活への期待と少しの不安を胸に、この佐渡中等教育学校に入学しました。この日を迎えるまでの６年間という日々の中、私たちは様々な行事を経験し、また多くの試練を乗り越えてきました。ここまで成長することができたのは、私たちは欠かすことのできなかった人たちの支えがあったからだと思います。

まず先生方には、勉強のことはもちろん、人としての生き方を教えていただき、普段の学校生活の様々な面で支えていただきました。特に私たちは静かで反応が小さいというイメージをもたれ、学年の先生方を中心に、「元気よく盛り上げていこう」などと激励され、時には厳しくご指導をいただくこともありました。本当に先生方には何度もご迷惑やご心配をおかけしました。しかし、そんな私たちにも勉強や進路に関して一人一人に親身になって相談に乗っていただき、行事があるときには一緒になって楽しく盛り上げていただきました。私たちがここまでくることができたのは、先生方のおかげです。これまで私たちを温かく見守り、導いてくださりありがとうございました。

それから後輩の皆さんには、様々な行事や部活動の面で支えてもらいました。私たちの力だけではいいものは作ることができず、やはり皆さんからの助けがあっていいものをつくることができたと感じています。私たちが皆さんのお手本となり、慕ってもらえる先輩であったかはわかりません。しかし、最後まで私たちについてきてくれて、本当に支えになりました。これからは皆さんがよりよい佐渡中等をつくっていってください。

そして、家族にとっては反抗ばかりしていた娘・息子たちであったと思います。しかし、支えてもらったことに変わりはありません。日々の家事に加え学校の送り迎えや朝早くからのお弁当作りなど、数え切れないほど支えてもらっていたことに感謝の気持ちでいっぱいです。特に進路に関しては、私たちの目指す道すべてにおいて理解してくれているわけではないと思います。しかし、最後まで親身になって相談に乗り、応援してくれて自信をもって自分の道を歩むことができました。今、少しでも大人らしく成長した姿を見せることができていたらうれしいです。これまでたくさん言い争い、怒りや不安をぶつけてしまうこともありました。きっとこれからもあると思いますが、親孝行のできる立派な社会人となれるよう、努力を続けていきたいと思います。18年間育ててくれてありがとう。

最後に10期生の皆さん。私たちは６年間の日々をともに協力し、支え合って乗り越えてきましたね。皆さんにとってどのような６年間だったでしょうか。振り返ってみると、体育祭、文化祭、合唱発表会、修学旅行、球技大会、研修旅行など、行事がくるたびに気が乗らないこともありながら、「頑張ろう」と声を掛け合い、力を合わせて取り組んできました。最後には、「なんだかんだで楽しかった」と一人一人の笑顔がそこにはあったと思います。特に、今年の体育祭では、“サムライ”、“中華”をテーマに両軍本気でぶつかり合いました。不安になり焦ってしまうこともありましたが、先生方から称賛の言葉をいただけるほど最高の体育祭を作り上げることができました。それは、みんなの思い、力が一つになった証だと思っています。このように６年間作り上げてきたものは個性が輝く私たちらしいものであったと感じます。それはどれも忘れられない思い出です。しかし、どんな行事よりも、みんなと過ごした数え切れないくらいの思い出があの教室に詰まっていることでしょう。ふざけ合い笑い声の飛び交う昼休みも、遅くまで残り、話に花を咲かせた放課後も、勉強をともに頑張り、一緒にお弁当を食べたりしたあの時間も、みんなと同じ教室でともに過ごした何気ないその日常が、何よりも楽しかった。みんなに支えられていたことに今、改めて気づかされました。本当にありがとう。これから10期生のみんなが自分の道を歩んでいくその道中にはうまくいかず、つらいこともあると思います。そんなときには諦めることなく、今まで積み重ねてきた学びを活かしてどんなことも乗り越えていきましょう。いつかまたみんなと語り合える日を楽しみにしています。

私たちをここまで支えてくださった先生方、後輩たち、家族、皆さんの支えで私たちは私たちの道を歩んでくることができました。その感謝の気持ちを伝えるとともに、これからも私たち10期生が自分の夢への歩みをとめず、先の読めない未来かもしれませんが、希望をもって突き進んでいくことを誓います。

最後になりますが、今度の佐渡中等教育学校の益々の発展を祈念し、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

3月1日～3日　2年生　修学旅行（関西方面）

３月１日～３日の３日間、２年生は関西方面へ修学旅行を行いました。１日目は大阪城、おおさかATCグリーンエコプラザ、２日目は伏見稲荷大社、三十三間堂、清水寺、金閣寺、嵐山へ行きました。３日目には京都大学で、学生によるキャンパスツアーが行われました。生徒にとっては、日本の歴史や伝統に根ざした文化遺産や、日本が誇る伝統工業、SDGsの取り組みを行う企業や大学の見学を通して、多くのことを学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。保護者の皆様のご理解、ご協力を賜り、研修旅行を実施することができました。ありがとうございました。